

藤崎小学校



ぼくの自慢

藤崎小学校

六年

工藤 彪

ぼくの母さんの仕事は介護士です。ぼくはなぜ母さんが介護の仕事をしているのか疑問に思う時があります。それは、夜遅くに呼び出しの電話がかかってくるまで出かけて行ったり、忙しくてお昼ご飯を食べられないかた。と言う時があったりするからです。さらには、仕事から帰ってくるな

り、今日、おじいちゃんにかまれました。この仕事を選んだらうと思いません。六年生になり、母さんが働くことになり、学校で見学することになりました。母さんがどんなふうになっているのか見学できるのでも楽しみにしていました。見学しながら、発見したことがいくつかあります。一つ目は手すりです。ほとんどの所に手すりがついていて、その高さも学校にあるものよりも少し低く、お年寄りが使いやすいようになっています。

二つ目は手洗い場です。ぼくは実際に車椅子に乗せてもらいました。手洗い場につくとその便利さを感じました。手が洗いやすい高さになっていたのはもちろんですが、鏡の角度が車椅子に乗っている人にとって見やすいように斜めになっていたのです。少しでも便利に使ってほしいという思いが感じられました。三つ目はスタッフの態度です。お年寄りが暴力をふるったり、うるさくなったりしても、笑顔で接してすごいなと思います。ました。ほとんどのスタッフの人が、自分のことよりも常にお年寄

りのことを優先して考えていました。施設全体から、お年寄りを第一に考えてあげていることが伝わってきました。優先という言葉は世の中にたくさんあります。駐車場もその一つです。入り口の近くに必ず車椅子を利用している人のための優先駐車場があります。その駐車場に健康な人が停めているのを見かける時があります。すると、本来停めるべき人が停められなくなってしまうます。遠いところを見つけて停めるしかありません。そうなる時、お年寄りにとっても、母さん

ひいおばあちゃん

藤崎小学校 六年

福寿 爽茶

わたしのひいおばあちゃんは去年の十一月で百才になりました。

たまたに物忘れをする事もありました。

が、トイレや身じたくなどは自分

下しています。そんなひいおばあ

ちゃんかデブサーブスを利用する

さ。かけになつたのは、去年のお

正月に転んで足を骨折したからで

す。高齢だ。たので歩けなくなる

かと家族みんな心配しました。が

手術をしてリハビリを頑張り、無

事歩けるようになりました。退院

の日も決まり、家ではその日に向

け準備が始まりました。ろう下や

トイレ、玄関に手すりを付けたり、

くつきはさしやすいうように玄関には

いすき準備したりしました。その

かいあって、普段の生活は、今ま

下とあまり変わらぬでさるように

なりました。でも、お風呂だけは

どうにもなりません。段差

もあり、ちよつとせまいので、介

助して入浴させてあげることでも

きません。福祉施設の方と

相談して、デイサービスを利用す

ることになりました。でも、ひいお

ばあちゃんはあまり行きたがりま

せんでした。行ってもすぐに帰
てきます。
そんな時、学校で老人ホームの
見学に行くことになりました。老
人ホームに着くと、そのきれいさ
に驚きました。老人ホームにはた
くさんのおじいちゃんやおばあ
ちゃんがいとて、とても楽しそうに過
ごしていました。私たちを案内し
てくれたスタッフの方も親切で、
みんなやさしそに見えました。
それなのに、私のひいおばあちゃん
はどっしりですぐに帰。て来るん
だろうと思いました。その日帰。
てから、わたしは老人ホームを見

学してきたことやお年寄りの人た
ちとの交流として劇を見せてあげ
たことなどを話してあげました。
また、施設にはお年寄りの人たち
が安心して過ごせる工夫や楽しめ
る活動もたくさんあることなども
話してあげました。ひいおばあ
ちゃんも楽しそうに聞いてくれまし
た。それから、ひいおばあちゃん
は行きたくない顔をしなくなると
よらかな気がします。
ひいおばあちゃんのけがや学校
での福祉学習を通して、それぞれ
の人に合った環境を作。ていかな
ければいけないというのを学び

ました。お年寄りを大切にしたり、
困っている人を助けてあげたり、
そういうことが当たり前にできる
人になりたいと思いました。



